

平成22年度 企画事業
つながる！はじまる！ボランティア体験講座
～CLUB E.V.O.～

ボランティア活動や自然体験活動に必要な基礎的知識・技術を学ぶことができ、地元に貢献できるボランティアについて考える機会となりました。また、参加者同士のネットワークも広げることができました。

1 事業実施までの経緯

「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」（中央教育審議会答申、平成14年7月29日）を踏まえ、青少年にボランティア精神を普及し、生涯を通じて様々な場面でボランティアとして活躍できる人材を育成する重要性は従来から指摘されている。また、当機構では法人ボランティア制度が制定されており、そのカリキュラムに基づき、ボランティア自身が事業運営に関わることで、主体的に行動できる人材育成につながるよう企画した。さらに、国立大洲少年交流の家をボランティア発信の拠点の一つとして位置づけ、様々な施設で活躍するボランティアの交流の場となるような足がかりとなるように展開したいと願い、本事業を実施した。

2 ねらい

青少年教育におけるボランティア活動に必要な基礎的な知識・技術等を習得するための研修を行い、生涯を通じて地域や様々な場面において主体的に行動できる態度を育成する。

3 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲少年交流の家

4 後援 愛媛県教育委員会・大洲市教育委員会

5 期日 平成22年5月29日（土）～30日（日） 【1泊2日】

6 場所 国立大洲少年交流の家

7 参加人数 19名+運営ボランティア5名（募集人数40名）

8 講師 中田 非斗志 氏（愛南町立一本松中学校長）
 水本 孝志 氏（さんきら自然塾 代表）
 水本 比登美 氏（さんきら自然塾 ゲームコーディネーター）
 国立大洲少年交流の家 企画指導専門職・法人ボランティア

9 日程

□5月29日（土）

10:45 11:10 11:30 12:30 13:30 15:00 18:00 19:30 20:30 22:30

受付	開講式	アイスブレイク	昼食	講義Ⅰ 青少年教育と体験活動の意義	実習Ⅰ 救命救急法	夕入 食浴	講義Ⅱ・演習 ボランティア観をつくろう	自由交流	就寝
----	-----	---------	----	----------------------	--------------	----------	------------------------	------	----

□5月30日（日）

6:30 9:00 12:00 13:00 14:30 15:00 15:30

起つ朝食 準備	準 備	実習Ⅱ 自然体験活動の知識・技術 ①自然観察の実習 ②カヌー実習☆どちらかを選択	昼 食	講義Ⅲ・実習Ⅲ ボランティア・体験活動指導者の資質と役割について考えよう	連 絡	閉 講 式	解 散
------------	--------	---	--------	---	--------	-------------	--------

10 活動内容

国立大洲青少年交流の家では、高校生・大学生・専門学校生・社会人等の青年を対象にボランティア養成事業を行っている。今年度もスタートアップセミナーとして「つながる！はじまる！ボランティア体験講座」を、独立行政法人国立青少年教育振興機構における法人ボランティア養成共通カリキュラムに基づく13時間（「青少年教育の理解」「ボランティア活動の意義」「活動スキル」など）の内容で実施した。

青少年教育におけるボランティア活動に必要な基礎知識・技術等を習得するための研修を行い、生涯を通じて地域や様々な場面において主体的に行動できる力を身につけることをねらいとしており、今年度は5月29日・30日に1泊2日の日程で行った。

開講式の後には、参加者同士が交流できるようにと先輩ボランティアが主導して進めたアイスブレイクで、参加者は緊張した面持ちから笑顔に変わっていった。その後、野外活動中に起こりうる事故の対応や救命救急法について学び、安全管理の大切さを学んだ。活動スキルにおいては、当施設でメインの研修プログラムになっているカヌー実習と施設内のフィールドを使った自然観察実習の2つに分かれて活動を行った。

(1) アイスブレイク「人との関わり方を学ぼう」

講師 国立大洲青少年交流の家 法人ボランティア 石尾 貴浩・木村 瑠衣・福森 咲

初対面の参加者に対して、これから和やかに交流できるように最初にアイスブレイクを実施した。当所では研修支援プログラムでグループワークゲームを実施しており、企画事業でも最初に取り入れることが多い。本事業でも1時間ほどのゲームを取り入れることで、参加者の緊張した心をときほぐす時間となった。



(2) 講義 I 「青少年教育と体験活動の意義」

講師 愛南町立一本松中学校長 中田 非斗志 氏

講師の中田氏より「青少年教育と体験活動の意義」というテーマで講義をしてもらった。今日の社会における青少年教育の課題について知るとともに、講師が長年に渡って実践している夏休み中の長期サバイバルキャンプなど、実践的・先進的な事例を聞いた。自然体験活動が青少年の成長する過程で非常に重要な部分を占めていることや、学校における集団宿泊体験活動の必要性を理解することができた。



(3) 実習 I 「けがの応急処置法と救命救急法」

講師 大洲消防署員



自然体験活動中やボランティアとして参加している事業などで起こりうる怪我やその対処方法、救命救急に必要な知識・技術を学んだ。どんな状況でもしっかりと対応ができるように、2人組で心肺蘇生法や AED の使

い方などの実習をした。参加者は3時間の講習を修了し、『普通救命講習修了証』を受け取った。

(4) 講義Ⅱ・演習「ボランティア観をつくろう」

講師 国立大洲青少年交流の家 企画指導専門職 橋田 年弘

法人ボランティア 石尾 貴浩・木村 瑠衣・福森 咲

ボランティア活動の意義と今日的役割からはじまり、ボランティアの歴史および日本でボランティア活動が行われるようになった背景、ボランティア活動の現状（いろいろなボランティア活動）などを知ることができた。参加者もこれからボランティア活動を行う上で、ボランティア活動の心がまえとボランティアリーダーとしての役割を理解した。後半は当施設のボランティアより「CLUB E.V.O.」としての活動紹介があった。E.V.O.とは、『愛媛でええじゃろボランティアいん大洲』の略称で、E.V.O.の”E”には、「Evolution-進化-、Ecology- 環境-、Education- 教育-、Ehime-地元愛-」という4つの意味も込められている。この4E（良い）ことを柱に E.V.O.は様々な活動をしている。参加者は先輩ボランティアの活躍を熱心に耳を傾けていた。



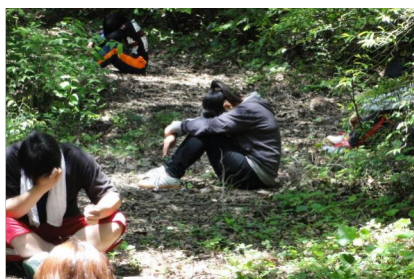
(5) 実習Ⅱ「自然体験活動の知識・技術」①か②のどちらかを選択

各教育拠点の特性に応じたプログラムに対応するための知識・技術等を学ぶ。

①自然観察の実習

講師 さんきら自然塾代表 水本 孝志 氏

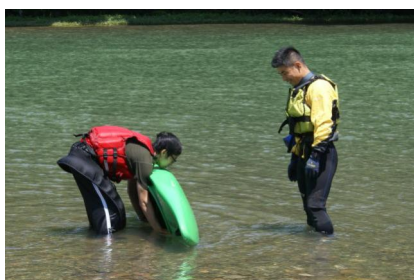
ゲームコーディネーター 水本 比登美 氏



国立大洲青少年交流の家のフィールドである”鴫が森”を中心として自然観察実習を行った。ネイチャーゲーム形式で、「不思議な形、紫色の花、外来種、落とし物、キノコ、とげとげのもの、セミ」など16の課題が与えられ、カードの中をうめていった。鴫が森を歩きながら、講師のいろいろな話や動植物の解説に耳を傾けた。また、途中で5分間目を閉じ、その中で聞こえてくる声や音を感じ取り、自分の中で何が一番心に残ったのかを出し合った。風で木の葉が揺れて擦れる音やいろいろな鳥の鳴き声、何かの落ちる音など、自然の中の音に安らぎを感じたようだった。後半には、フィールドスコープや双眼鏡を使用して野鳥の観察も行った。最後は自分が自然から愛されるために、どのようなことをしていったらいいのかを決意表明し、実習を締めくくった。

②肱川でのカヌー実習

講師 国立大洲青少年交流の家 企画指導専門職 松井 和久



当施設を利用する団体は、カヌー研修を取り入れることが多い。実際に体験することでカヌーの楽しさを知り、それと同時に操作技術や指導技術を身につけることができた。肱川でのカヌーに、参加者も大満足だった。

(6) 講義Ⅲ・実習Ⅲ「ボランティアや体験活動指導者の資質と役割について考えよう」

講師 さんきら自然塾代表 水本 孝志 氏

この講義・実習では、「身近な自然に学ぼう、素晴らしき地球の仲間」という題で、この地域の貴重な動植物の紹介や、講師が代表を務めるさんきら自然塾の行っている環境保全活動の話を聞いた。さんきら自然塾では、参加者が小さなビニール袋を持ち、自然観察をしながらゴミを拾っていることや、ボランティアにとって大事なことは何かということ、環境保全の重要性と重ね合わせて訴えている。これから”自然を愛する人”になるだけでなく、”自然から愛される人”になるために何をしなければならないのかを考え、行動していかねばならない。そして、「Eひめ、Eかお、Eサイン」を合い言葉として、これからのボランティア活動を広げていってほしいという呼びかけに、参加者もうなづいていた。

今回、”地域に生息する動植物の自然観察”という誰でも興味を持ちやすいテーマであるとともに、絶滅危惧種に関する事などいろいろと考えさせられる内容に奥の深さを感じていたようだった。また、ふりかえりでは自分の感じたことや思いを発表し合うことで、全体で共有化したものとなり、「自分のボランティア観」もそれぞれが創っていった。

1.1 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

* 満足：62.5% * やや満足：37.5% * やや不満：0.0% * 不満：0.0%

- とても充実した一日でした。ボランティアは奥が深い。また、ゆっくりボランティアについて考えたい。
- 応急処置と救命救急法は何回でも受けて再知識を確認して、少しでも活用したい。
- 楽しく学ぶことができました。
- 救命救急法を学び定期的な訓練を受けたいと思いました。
- 色々な気づきがありました。

1.2 成果と課題

今年度は、例年行っているボランティア養成研修に自然体験活動の補助指導者研修会（補助指導者とは18歳以上で体験活動の指導補助をしたり、青少年の健康・安全等生活にかかわる指導をするもの）を含めた内容で実施することとした。これは「ボランティア養成共通カリキュラム」に「自然体験活動指導者養成事業」の「学校教育における体験活動の意義」及び「教育課程と体験活動の関連性」に関する内容を取り入れたプログラムとなっている。つまり、今回の「ボランティア養成研修」の修了者は小学校が実施する長期自然体験活動の補助指導者にも認められるということである。また、自然体験活動の技術（活動スキル）の内容では、当所の人気プログラムであるカヌー実習と自然観察から選択してもらった。参加者の中には、昨年度にも本事業に参加したりピーターの姿もあり、ボランティア活動に対する意識の高さを感じ取ることができた。

高等学校学習指導要領の第4章の特別活動では、「勤労の尊さや創造することの喜びを体得し、職業観の形成や進路の選択決定などに資する体験が得られるようにするとともに、ボランティア活動など社会奉仕の精神を養う体験が得られるような活動を行うこと。」と記されている。当所でも学校との連携をとり、学校の現状や生徒の発達段階及び特性等を考慮し、ボランティア活動など体験的な活動の機会をできるだけ与えてあげることが大切である。

毎年多くのボランティアが国立大洲青少年交流の家にやってくるが、ここで実施している事業は、ボランティア活動のきっかけ作りにすぎない。ボランティア活動は、志さえあれば、いつでも、どこでも、誰にでもできることである。当施設で育ったボランティアが各地域で活躍することを楽しみにしている。